

地球惑星科学委員会 IUGS 分科会（第 25 期・第 5 回）議事要旨

日時：2021 年 12 月 28 日（火曜日）17:10-19:00（zoom により会議）

参加者：西弘嗣（委員長、議長）、木村学、北里洋、斎藤文紀、益田晴恵、中田節也、大久保泰邦、佃栄吉、堀利栄、奥村晃史、谷口真人、掛川武（書記）

議題

- (1) 西委員長から 2021 年日本学術会議総会（12 月 3, 4 日）の報告があった。意思の表出方法やマスタープランに関する変更が行われた。その後、意思の表出方法に関して意見交換を行った。また、総会に関して北里委員から次年度予算に関する質問があった。総会の資料は後ほど本分科会委員と共有することになった。
- (2) IYBSSD2022 に関して西委員長から説明があった。連絡会議（シンポジウムの企画、学協会への啓発など）に IUGS 分科会が、参画する希望がある場合は今後も参加可能である。分科会からは参加した方が良いという意見があった。その結果、参加とともに谷口委員を運営ワーキンググループに推薦することになった。
- (3) 最近の IUGS の動向に関して北里委員から説明があった。11 月 29 日開催された IUGS のバーチャル理事会に関して北里委員から報告された。前年度の活動報告の承認、次年度予算案の決定を 3 月 13~18 日に行う予定である。さらに、新たに Geoheritage（107 のサイト）を決める、World Landslide Forum や CCOP（地質調査所連合）に関しては異常気象に関してフォーカスされてきている傾向がある、次年度の IUGS Anniversary Year の際に大規模広報活動が企画されており一般向け情報発信を行う、予算の関係でイギリスがカテゴリー 6 になる。なお、IUGS の分担金に関しては学術会議で既に審議に入っている。
- (4) チバニアンシンポジウム（2022 年 5 月 23 日予定）に関する提案書に関して報告された。1 月に幹事会向けに提案書を提出する予定である。オンライン開催や web 配信の可能性を検討する必要がある。
- (5) 公開シンポジウム（活動域縁辺域における洋上風力開発に向けて）案（6

月 3 日の予定) に関して大久保委員から説明があった。社会との関わりを重視する方向で講演者を調整した。本分科会で承認された。

- (6) 次期 IGC への対応は、この分科会と地質学会が連携し対応する方針が確認された。特に情報収拾など各委員で対応することになった。日本地質学会以外のコミュニティーに対する影響も十分に考慮する必要があることも議論された。